

平成26年6月8日
今週のベストショット



雁レク軟式3 雁ノ巣ライナーズ 対 奈多フェニックス戦
1点を追う最終回、逆転打の明瀬航選手（左）と同点打の明瀬旭選手（右）。
写真：ブルーマーリンズ 井手翔一郎

青松園A 昨年優勝の奈多サンデーズ、3年ぶりレッドに敗れる！ 四球＝ヒット！？

レッドサンデーズ（2勝1敗）4 2 3 0 0 9 江口○ー荒口

奈多サンデーズ（3勝1敗）3 2 0 0 0 5 木下●ー田中（俊）

HR：土田（奈多サ） 2BH：八島（レッド） 鳥羽、秋山2（奈多サ）

この試合を通じて、奈多サンデーズ木下投手は制球に苦しんだ。初回は四球でランナーを溜めてレッドサンデーズ四番八島選手にライトヘタイムリー二塁打を打たれ、その後も四球とエラーで4失点。二回表は、二死から二者連続四球を出し、レッド五番神田選手のサード内野安打の間に二塁走者の嶋村選手がホームイン。さらにバックホームの送球が逸れた隙を突いて一塁走者の八島選手が好走塁で2点。三回表は、四球で溜めたランナーをレッド二番荒口選手のタイムリーで返すも、荒口選手の暴走に押し出される形で三塁ランナーがアウト。しかしその後の好走塁などで計3点。奈多サンデーズは、終盤四、五回をWプレーなどで無失点に抑えるも3安打11四球で9失点。一方レッド江口投手はそこそこ打ち込まれた。特に奈多サンデーズ三番秋山選手との相性が悪く、二塁打2本を含む3安打猛打賞、五番土田選手には2ランHRを打たれた。四球で出したランナーが全て失点に繋がったが、その数が少なかったのが勝敗の差となった。（記事：新町ウインズ桐島司、写真：城戸和裕）



試合前ベンチ前で円陣を組む奈多サンデーズ。



試合前ノックを行うレッドサンデーズ。



奈多サンデーズ先発の木下投手。



先制のタイムリー二塁打のレッドサンデーズ八島選手。



一回表、PBで追加点を挙げるレッド八島選手。



レッドサンデーズ先発の江口投手。



あわや激突！？レッド前田左翼手がキャッチ。



力強いバッティングで猛打賞の奈多サンデーズの秋山選手。



レフトへ豪快な一発！！奈多サンデーズの土田選手。



三回表、WPでレッド江口選手がホームイン。



ボールがこぼれた際に荒口選手もホームを陥れた。



奈多サンデーズに勝利し喜ぶレッドサンデーズの選手達。

青松園B 彼女の前でホームラン!

新町パイレーツ (0勝3敗) 0 0 0 3 3 吉田●ー八坂、田村

奈多クラブ (2勝1敗) 3 1 2 1 7 今林瑠生○ー高瀬

HR: 今林賢人 (奈多ク) 2BH: 今林佑将 (奈多ク) 吉田 (新町パ)

霧雨が舞い、肌寒さを感じる中で試合が開始されたが、奈多クラブ先発の今林瑠生投手は球威で圧倒し、パイレーツ打線を捻じ伏せる上々の立ち上がり。また奈多クラブは、今林賢人選手が先頭打者本塁打を放つなど、四死球に敵失を絡め、初回から3点を先制。続く二、三回にも内野安打や敵失、適時打と効果的に追加点を奪い、6点の大量リードで余裕の試合運びを見せた。パイレーツ打線も三回まで9三振と迎えこまれていたが、四回表、吉田選手の二塁打を皮切りに四球や岩本選手の適時打等で一挙3点を返し、なお無死満塁の好機を掴んだ。この絶好のチャンスにベンチや応援席の期待も膨らんだが、本塁封殺、二三振と後続が討ち取られ、逆に1点を追加した奈多クラブが本日の勝者となった。四回11奪三振の瑠生投手、彼女が試合を観戦していた本塁打を含む猛打賞の賢人選手、両今林選手の活躍が際立った試合となった。(記事・写真: 塩浜ジャガーズ 高嶺信彦)



熱投! 奈多クラブ今林瑠生投手。



投手で四番、新町パイレーツ吉田選手。



初回、今林賢人選手の先頭打者HRに沸く奈多クラブ。



本塁を伺う奈多クラブ今林佑将選手。



パイレーツ白岩二塁手と岩本一塁手。



最終回タイムリーを放つパイレーツ八番岩本選手。



戦況を見つめる奈多クラブ今林常光選手。



コーチャーズボックスから見入るパイレーツ田中監督。



彼女の前でホームラン！奈多クラブ一番今林賢人選手。

雁レク軟式4 ソルトベ이스ターズ 14 安打の猛攻でコールド勝ち

三友クラブ (2敗1分) 20002 4 足達●ー広瀬

ソルトベ이스ターズ (2勝2敗) 5207X 14 中村(耕)○ー酒井

HR: 松尾(三友ク) 中村(耕)、荒尾(ソルト) 3BH: 柿崎(三友ク) 中村(耕) (ソルト)

2BH: 酒井(ソルト) 盗塁: 大坪、松尾(三友ク) 中村(健) 3、八柄3、森(哲)、石井(ソルト)

梅雨らしい曇天の中始まった試合は、初回から動く。一回表、三友クラブは1番柿崎選手がいきなり三塁打で出塁すると、続く大坪選手がタイムリーを放ち、あっさりと先制した。先制した三友クラブ有利に試合が進むと思われたその裏、エラーで出塁したランナーをソルトベ이스ターズ三番森選手が返し、すぐさま同点に追いつく。

続く、中村（耕）選手にはHRもとびだし打者9人の猛攻で逆転に成功する。二回から調子を上げた中村（耕）投手は、五回表に好調の三友クラブ松尾選手にHRを浴びるもの、要所を締め4失点で切り抜ける。攻撃では相手のエラーも絡み、14安打2HR、五回コールドでソルトベスターズが勝利した。一方、三友クラブは、11安打を放つも守備でのミスが目立った試合であった。（写真、記事：三苦ホーネッツ 洲上 祥太）



曇り空のもと行われた一戦。両チーム握手。



打撃でも大活躍のソルト中村（耕）選手。



一回裏バントで揺さぶるソルト八柄選手。



初回、三塁打を放つ三友クラブ柿崎選手。



三友クラブ広瀬選手執念のホーム突入も判定は！？
・・・惜しくもOUT。



本塁打を放ち、三塁を周るソルト荒尾選手。



三友クラブ主将の竹岡選手（左）と最終回本塁打の松尾選手（右）。

雁レク軟式3 激闘を制した、雁ノ巣ライナーズ明瀬兄弟！！

雁ノ巣ライナーズ（4勝0敗）10004 5 鳥越○ー竹上
奈多フェニックス（3勝1敗）00300 3 池見●ー実延（新）

HR：沖（奈多フ） 盗塁：沖（奈多フ）

猛暑の続く中、少し肌寒いコンディションで迎えたここまで全勝同士の対決がスタート。一回表、ライナーズの攻撃、一番明瀬（旭）選手が四球にて出塁、続く二番明瀬航選手が送りバントを成功させランナー二塁へ。三番中口選手がレフトフライに倒れ、迎える四番宇野選手！先週の試合で特大柵越えHRを放っている宇野選手がセンター前にきれいにはじき返しライナーズが先制。一回裏、フェニックス一番今林勇太選手がセーフティバントにて出塁、PBの間に二塁まですすみ、鳥越投手の2四球にて二死満塁。六番実延新伍選手に期待がかかるが、ピッチャーフライにて三者残塁。二回の攻防は、ライナーズは三塁までランナーをすすめるが得点に結びつかず、一方のフェニックスも池見選手のセンター前を皮切りに、続く沖選手がレフト前ヒットにて連続安打、四球をからめ満塁としたが、西藤選手がショートゴロに倒れ得点ならず。鳥越投手を打ち崩したいフェニックスは三回裏、この試合5つ目の四球にて、ランナーを一二塁とすると前打席ヒットの沖選手が、値千金の左中間3ランにて逆転打を叩き出す！！この時、左中間に飛んだボールを追い、ライナーズ有馬選手と中口選手がお互いの胸を強打ち中口選手がグラウンドに倒れこみ10分程試合が中断した。しかし、大事に至らず両選手とも試合に戻った。フェニックスは続く熊丸選手がセンター前にてチャンスを作るが後続が倒れ3点止まりとなった。追いつきたいライナーズ、追加点をものにしたいフェニックスだが四回の攻防は両チームとも無得点。むかえた五回表に本試合最高の盛り上がりが出てくる！！まずはライナーズ七番有馬選手が意地の三遊間ヒットにて出塁、続く池内史彦選手がピッチャー前にバントすると池見投手の悪送球を誘いランナー二三塁とする。ここでライナーズの走攻守揃った明瀬兄弟の兄、旭選手が追い込まれながらも意地のライト前ヒットにて1点追加、追い上げムードを作りPBにて二塁へ、迎えた打撃好調の弟、航選手がセンター前に弾き返し、二者ホームインで4-3と逆転！！更に宇野選手のライトへの犠牲フライにて1点追加し5-3とする。五回裏、フェニックスは池見選手がこの日2本目のヒットにてチャンスを作るが後続が倒れゲームセット！この試合、7四球にて制球難だった鳥越投手だったが外角に曲がりながらふわっと上がるライズボールにフェニックスの強打者もあと1本が出なかった。最後に、怪我など大事にいたらなく安心しましたが外野守備だけでなく、お互いに声をかけ、ボールを捕りに行くという基本は徹底しなければと感じた試合だった。（記事：ブルーマーリンズ 末松勝祝、写真：井手翔一郎）



安定したピッチングのフェニックス池見投手。



要所要所を抑え見事勝利、ライナーズ鳥越投手。



一回表、ライナーズ宇野選手のセンター前で先制。



先制のホームを踏むライナーズ明瀬旭選手。



二回裏、池見選手のセンター前ヒット。



五回表、逆転劇の口火をきった有馬選手。



五回表、怪我をものともしない中口選手の2本目の内野安打。



五回裏、最終回果敢に次の塁を狙うフェニックス沖選手。



本日のヒーロー：殊勲打を放ったライナーズ明瀬兄弟の満面の笑み！

第6週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第6週6月8日は4試合が行われました。

青松園Aのレッドサンデーズ対昨年覇者奈多サンデーズ戦の同門対決は、初回から奈多サンデーズ木下投手の制球が定まらないうちにレッドが4点を先取。しかし奈多サンデーズも三番秋山選手を中心に3点を返し1点差。取っては取り返す攻防が三回表まで続くが、以降は両チーム無得点。試合は大方の予想を裏切って9-5でレッドサンデーズが快勝した。フルメンバーが揃ったレッドサンデーズに対して大ベテランが2人も先発出場しなければならなかった奈多サンデーズ。しかしそれ以上にレッドのこの試合に臨む姿勢、勢い、思い全てが上回った結果だった。

青松園Bの新町パイレーツ対奈多クラブ戦は、奈多クラブが一回裏に今林賢人選手の先頭打者HRで先制すると、終始優位に試合を展開。最終回にパイレーツが意地を見せ四球を挟んでの4連打で3点を失うものの、三回まですべてのアウトを三振で奪った今林瑠生投手が完投で3-7の勝利。一昨年2位のパイレーツは開幕から3連敗。この試合のポイントとして、奈多クラブに先制HRを打たれた後の打者に出した連続四死球をエラーで点に結びつけてしまったパイレーツ投手、守備陣の崩壊がスコアブックから見て取れる。奈多クラブは一〜三回まで先頭打者がヒットで出塁と打線が好調だ。

雁レク軟式4の三友クラブ対ソルトベイスターズ戦は、両軍合わせて25安打の壮絶な乱打戦。また三友2盗塁に対しソルトは8盗塁と走りまくった。その差が出たのか4-14と10点差をつけてソルトの勝利。三友はもう少し点の取り方を工夫すべき。二、三回の無死一二塁を点に結びつけられないところが問題だ。ソルト四番でエースの中村耕一郎選手は立ち上がりに難はあるが、打撃で活躍しそこから波に乗っていく傾向がある。どう彼を攻撃面、投球面で追い込むかがソルト打倒のカギとなりそうだ。

雁レク軟式3の雁ノ巣ライナーズ対奈多フェニックス戦は、3勝無敗同士の対戦となった。明瀬兄弟を一二番に並べたライナーズ打線が機能し、初回の先制点と最終五回の大逆転を生んだ。フェニックス打線は7四球の鳥越投手を捉えるチャンスが毎回あったにも関わらず、三回の沖選手の3ランのみだったのが痛かった。

これで全勝が三苦ホーネッツと雁ノ巣ライナーズ（共に4勝）となりました。今年は優勝争いが混沌としそうです。逆に全敗がブルーマーリンズ、三苦フレンズ、塩浜ジャガーズ、新町パイレーツの4チーム。早く1勝が欲しいですね。

サッカーのFIFAワールドカップが始まり、盛り上がりを見せてきました。日本の初戦は明日6月15日の朝

10時からコートジボアール戦です。ブラジルは日本の真裏なので、12時間の時差。キックオフは現地の夜10～11時ということ？・・・体調管理が難しそうです。

決戦に挑む準備力が勝敗を分けます。前日の深酒、睡眠不足は最高のパフォーマンスの大敵です。6月15日試合のチームは、しっかり睡眠をとって、体も心も最高の状態で試合に臨み、その後しっかりジャパンを応援しましょう！